



自治会だより

2020
新春号

～世代超え 気持ち繋がる
ふるさとへ～



元旦早朝の高岩天満宮



市内より望む富士山

新春にあゆませ

自治会長 半沢茂

新春を迎え、皆様益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

さて、昨年は新天皇が即位され「令和」と改元されました。そして私は浅井前会長の後任として会長に選任され新たな一歩を踏み出しました。新しい気持ちになったのも東の間、台風による度重なる災害、白岡ニュータウンでも白岡東小学校に初めて避難所を開設するに至りました。災害の多かった地域に比べ、白岡ニュータウンの災害は少なく安心の出来る街になりました。諸先輩の街づくりへのご努力が報われた一年でした。

一方、緑化規約の遵守と環境の維持を旗印にしてきた白岡ニュータウンの表玄関といふべき場所に葬儀場建設が予定されています。

住民皆様の意思確認を取るためア

ンケートを実施し、その結果を行政にお伝えし、事業者への行政指導をお願いしました。今後の大きな課題のひとつかと思えます。

又、情報化社会の一環としてＡＣＡＴＶでのタイムリーな情報の共有、ＡＨＰＶの有効活用を若い世代から高齢者の世代まで活用できる生活スタイルを目指すことが今年の眼目のひとつかも知れません。

更に、昨年３月以降、公園での遊具の一部禁止が気になります。子供の遊び場、そして安全な遊具が求められます。

最後に、年頭に当たり、春の花である「福寿草」元日草ともいうらしいですが黄色の花が初春にとっても似合います。花言葉として「幸せを招く・永久の幸福」だそうです。良き一年を願わずにはいられません。

青空市を終えて

青空市を終えて

事業部長 原尻文枝

12月8日(日)、初雪予報が出ていた前日とうつて変わり、ポカポカと暖かい快晴のお天気のもと、青空市が開催されました。

今年は令和クラブと共催で行いました。集会所ではカフェが店開き。香り高いコーヒーやお団子、おにぎりなどの軽食を販売し、事業部の作った豚汁とで昼ご飯を食べたり、おしゃべりしながら一服される方々で賑わっていました。

さくら公園では、長野産直のりんご販売、フリーマーケット、野菜マルシェや花と苗の販売などお馴染みの催しを準備し、多くの方が訪れ盛況でした。

長野は台風19号に直撃され、りんご農家も大きな被害があ

りました。その中で「うえはら農園」から貴重なりんごが届きました。

今年は数に限りがあり、箱売りはできませんでしたが460袋を準備し、列に並んで頂いた全ての方々にお届けすることができました。

また、今年の子供向けのワークショップを新たに企画しました。お母さんやお祖母さんといっしょに参加できる連鶴の折り紙、風船で動物や剣をつくるバルーンアート、糸で動物や人気キャラクターを作るポンポンの3つです。真剣に取り組み、完成した時は最高の笑顔でした。

天気にも助けられ、テントは張らず、準備も当日だけと省力化もできました。

また保安部の方のご協力

事故もなく無事終了しました。改めてご来場の皆様、朝からお手伝い頂いた事業部班長の皆さんおよび役員や関係各位に心より御礼申し上げます。



(長野産直りんごの販売)



(フリーマーケット)



(会長サンタ)

令和クラブ／自主防連絡協議会視察研修会参加

1日限定 令和カフェ
お気軽にご利用ください！
新白岡令和クラブ 浅井 嘉一

新白岡令和クラブは、新元号令和とともに、昨年5月1日に誕生しました。近くの喫茶店が閉店となり、困った人たちの声に応えようと発足、有志で立ち上げた、皆様の為のサロン”カフェ”です。

既に集会所にて実験的に開催してきましたので、お気づきの方も多いかと思えます。



令和カフェで談笑

飲み物や軽食のほか、歌声喫茶の雰囲気での団欒、ハンドメイド商品や、打ち立て蕎麦の販売、周辺農家による野菜マルシェで新鮮な野菜も扱

つてきました。
今年度も集会所をお借りして開催する予定です。

お隣の駒形や高岩、G・ガーデン等、親しいお友達と一緒に、お昼休みのひととき、ぜひ覗いてみてください！

**白岡市自主防連絡協議会
視察研修会に参加して**
自主防災会 半沢 茂

12月18日（水）「東京臨海広域防災公園そなエリア東京」を視察しました。（26団体32名の参加）

体験ゾーンでは地震発生後72時間の生存力をつける体験学習です。発災後↓脱出↓被災地の状況確認↓避難場所移動では、建物やエレベーター、狭い道路からの脱出、市街地区の危険箇所確認、そして安全確保などが体験できます。

一方、防災学習ゾーンでは備蓄・室内外の備え、そしてコミュニケーションという備

えが学べます。
20名以下は予約なし、しかも無料で体験学習ができます。一度見ておきたいものです。



「東京直下72h Tour」
崩壊した街ゾーン

歳末パトロール
保安部 荒井 富夫

年末の28日・29日の両日、ニュータウン恒例の歳末パトロールが実施されました。

初日の15時には久喜警察署と駅前交番から4名の署員にお越しいただき、年末の防犯、詐欺、交通事故などについて注意のお話があり、その後にご子たちを含め総勢70名の参加者が5班に分かれて、1丁目から3丁目まで歳末パト

ールを行いました。
また両日の18時にも40名の方々が参加され、木枯らしの吹く中、元気いっぱい「歳末パトロール実施中です」の声を上げて巡回しました。

ご協力いただいた方々に、あらためて御礼申し上げます。



みんなでパトロール



自主防災訓練実施結果／AED講習会報告

自主防災訓練実施結果報告

自主防災会 目次 英哉

秋晴れの下、自主防災訓練が、11月10日（日）、東小学校校庭で開催されました。

防災無線放送を合図に、訓練参加者が街区ごと集まり、東小学校に向かいました。

一般の参加者は189名で、その内20名以上が、「飛び入り参加」でした。

9時半からの開会式に続き、訓練を開始、今回は参加者が5つのグループに分かれ、煙ハウス体験、救護手当・搬出輸送・水消火器などの訓練メニューを各20分ずつ行うメリゴーラウンド方式で行いました。

正午前に訓練を終了、閉会式では白岡消防署職員からの講評、訓練ポスターを描いた子供達への記念品授与を行い、

今後の課題

正午に訓練を終了しました。訓練は滞り無く実施されましたが、今回は、参加者の減少が著しく、参加率は例年にならない低さでした。

参加者数が半減した区域もあり、これは天候不順が続いた後の好天の週末となり、家族での行楽が優先された結果と理解しています。

ニュータウンで唯一、居住者が増えつつあり、若い世代の割合が高い1丁目からの参加が少ない事は先行きに垂れ込める暗雲です。

若い家族が家族で参加しようと思える自主防災訓練が行えてはじめて「災害時要援護者支援制度」を含む災害発生に備えた街ぐるみの対応が可能になると考えるべきでしょう。

今後訓練への積極的な参加を呼び掛けるPR活動に力を

入れることが、自主防災会としての課題となります。

更に防災訓練を楽しく有益なイベントにする工夫も必要です。ご提案がありましたら是非お聞かせ下さい。



水消火器の訓練



搬出・輸送の訓練

AED講習会の報告

自主防災会 對島 一恵

9月28日、1丁目集会所にて30人以上の聴講者が集まり、AED講習会が開かれました。講師に白岡消防署の方々をお迎えし、テンポの良い語り口と熱血指導で楽しく心臓マッサージ（胸骨圧迫）とAEDの取り扱い方などを学びました。

先日久喜市の路上で意識を失った女性を、たまたま近くにいた看護師が救ったというニュースがありました。通りがかりのヒーローにならないまでも、家族の命を救えるようにはなりたいものです。



AED講習会

白岡人物伝 井沢弥惣兵衛為永

特別寄稿 第五回 白岡人物伝

水の匠・水の司 井沢弥惣兵衛為永

白岡市文化財保護審議会委員 板垣時夫

市内の緑豊かな田園風景の礎は江戸時代の新田開発にあります。それまでの低湿地や沼地を水田に変えることは、排水路と用水路の整備が必要でした。

この工法を行ったのが井沢弥惣兵衛為永です。為永の足跡は白岡市域だけではなく、県内の見沼溜井の干拓とこれに代わる用水源として見沼代用水の開削があります。

また、関東の多摩川改修・手賀沼の新田開発など全国にその足跡を残しています。



見沼自然公園内の銅像

井沢弥惣兵衛為永は承応3年（1654）に紀州溝口（現

和歌山県海南市）に生まれました。

元禄3年（1690）紀州藩に仕え、勘定方として藩の土木事業に尽くしました。

藩主の徳川吉宗が八代将軍に就いた時に旗本として迎えられる、勘定役となったのがすでに60歳を超えていました。

為永は全国各地の河川改修や新田開発に著しい活躍をし、勘定吟味役に昇進しました。

為永の考案した土木技術は「紀州流」と呼ばれ、幕府の正工法となり、明治時代になって近代土木技術が起きるまで長く用いられました。

為永の生涯で最大の事業が見沼の開発でありました。

見沼代用水の開削と市域の開発

井沢弥惣兵衛為永は見沼代

用水の開削にあたり享保10年（1725）に見沼を見聞し同12年8月に着手し、同13年春に完成している。

見沼代用水路は利根川沿岸の下中条（現行田市）から取水し、途中は星川の流路を利用し、当市柴山で元荒川を伏越でくぐり、末端は川口市から東京都に及んでいる全長80kmにも及ぶ巨大な水路をわずか半年で開削したのです。

この見沼代用水の開削に伴って当市を流れる用・排水路も整備されました。

主なものに栢間堀川、黒沼代用水、笠原沼代用水があり、当市の新田開発に大きな役割を果たしました。

柴山伏越

市内には多くの河川が流れ、川と川が交わる地点では川の立体交差が9か所あります。

その中でも代表的なものが柴山伏越であります。この伏

越は元荒川の川底を見沼代用水が潜り抜けるものです。

当初の構造では深さ5.7mの地中に、長さ46.8m、横4.2m、高さ1.2mの伏越樋を埋設したものです。

これとは別に長さ46.8m、横3.9m、高さ1.8mの掛渡井も一緒に造られました。後には撤去され、その後、数回にも及ぶ改修工事を行い、今日のものになりました。

常福寺の墓碑



井沢弥惣兵衛為永は元文3年（1738）に85歳で逝去し、江戸麹町（現千代田区）心宝寺に葬られました。

明和4年（1767）、見沼代用水の沿線村民は為永の遺徳を偲び、柴山の常福寺に分骨して墓石を建立しました。

シベリア鉄道膝栗毛 9,298 キロ列車の旅 (2)

シベリア鉄道膝栗毛

九一九八キロ 列車の旅(2) 植木育雄

成田より空路ウラジオストクに渡った筆者は、その日市街を観光。翌日、ノボシビルスク行第7列車に乗り、長い鉄路の旅に出発します。今回は途中のハバロフスクからバイカル湖へ向かう道中記です。

ハバロフスク→バイカル湖

5月16日(木)、ハバロフスク(モスクワまで残り8、531キロ)には朝9時54分着。定時運転だ。40分停車となる。

多くの乗下車客があるがロシア人ばかりで日本人らしき姿はない。因に我がコンパートメントでも途中駅から乗車して来た海軍制服らしき軍服の男性と、あと1人は夜中3時頃にも男性が乗車して来ていたが、その軍服男性は当ハバロフスクで下車。

乗客はくつろいだ様子でホー

ムに降りてヤニタイムや買い物でリフレッシュ。私は先頭機関車から編成をチェック。一等寝台(2人個室)1両、二等寝台(2段寝台4人個室)6両、三等寝台(3段寝台が通路を挟み、コの字型に廊下側にもある9人部屋10両、食堂車1両の18両編成。赤くてゴツイ電気機関車が牽いている。



発車して暫くすると短いトンネルを抜け、アムール川鉄橋に差し掛かる。橋の長さは全長2キロとか。重要設備の鉄橋には警備兵が配置され銃を片手に見張っている。

今度は昼食のアルミホイール箱が食堂車から届く。中身はソバの実を炊いたものとハンバーグ。我々の切符代には乗車日の朝と昼食が込みの様だ。

沿線は起床した時から既にシベリアの核心部に突入している。シラカバや針葉樹混じりの樹林帯が何処までも続く。電柱もない、畑もない、信号もない、ないはずだ道路がない。

線路に沿って両側50メートル前後は焼き払われている。柔らかい雨が降ってきた。

オプルチェ(モスクワまで8、198キロ)15時43分着。ここから時差が1時間遅れて日本時間と同じになる。同室

のあと1人の乗客も下車していく、この御仁は駅に着くたび何駅だと教えてくれた。この駅から1部屋を弟と2人で貸切状態が続く。

気分転換に15分停車の合間にホームへ降りる。すると警官2人に手錠をはめられた中年男がわめきながら下車していく。魚の燻製売りがホームを歩く。発車間際に燻製売りのそのおっちゃん、全部売り切れて煙草ふかしながら余裕の様子で帰っていった。周りにはトタン屋根の民家。寒そう、しかし家内は暖かいのだろう。この先ヤプロノイ山脈越え区間に入る。日本の山脈越えとはスケールが違う、地図でも茶色の色分けがグツと濃くなる区間だ。

Ωカーブ連続する。すれ違い列車が180度カーブした谷のむこうから次々と降りてくるのが見える。長編成の貨物列

シベリア鉄道膝栗毛 9,298 キロ列車の旅 (2)

車が連続するときには約3分毎にすれ違う。シベリア鉄道はシベリアの動脈。貨物輸送はほぼ100パーセント鉄道に負っているのだろう。(原油・ガスは鉄路に沿ってパイプラインがある。地表には見えない)

中に客車1両だけをつないだ電気機関車とすれ違う。

我が列車は2時間前後停まらないが、その間には小さな駅や、それに駅名もなく駅舎もない、ただキロ数だけ表示した短いホームだけの簡易駅もある。そうした駅を受け持つ区間運転の普通列車に違いない。まさか回送列車じゃあるまいし。ずっとキロポストは律儀にあるが勾配標が見当たらない。

車内に酔っぱらいがいる。車内禁酒でも食堂車はアルコールを提供している。私の昼食は持ち込みのインスタントラーメンだった。(客車の車掌室前にはサモワールがありいつでも

も熱湯がもらえる)が、夕食は食堂車に行く。すると、いる酔っぱらいが。

食事はメニューにあってもニエツトばかり。あるものの中からチキンのチーズ焼きを頂く。まずはないが量が少なく値段は高い。

夜は緯度と時差の関係で21時ごろまでは明るさが残る。明後日のバイカル湖畔通過に期待し、2日目の眠りにつく。

5月17日(金)。今日も同じ様な風景が続く。道は泥んこ道、残雪残り、川面はシャーベット状、多くの木々は芽吹く前だが、トド松には若葉が芽吹き、山ツヅジとかロウバイがほのかに咲いている。

朝9時過ぎに焼きたてのパンの車内販売が食堂車より来る。ピロシキとソーセイジドックを買い求める。

今朝も小雨が降ったりやんだり。アマザル(モスクワま

で7,012キロ)で18分停車、この駅では近隣のおばちゃん達が露店を出して、ピロシキ・茹で卵・水餃子・茹でソーセイジ・茹でたジャガイモ・ピクルス・コールスローサラダ・正体不明の瓶詰や缶詰等を販売していた。

ホームの物売りも衛生面か警備面から次第に締め出されているようで、この駅(アマザル)がこの旅、唯一の風景だった。



(乗客めあての物売り)

夕食にまた食堂車訪問。モンゴルとの国境近くを走行して

おり、今日はモンゴル系露人グループが酔って一隅を占拠。1人の男が弟のカメラに近づいて何やら喚く。赤パンツの男がリーダーらしく、たしなめる合図で引き下がった。

食堂車には夜は酔っ払いが多く、静かに食事とかビールという雰囲気ではない。一般客は持ち込みのパンやソーセイジ、キュウリやトマトといった野菜で食いつないでいるようだ。もともと地元客は我々物好きの様に、こんな列車に何日も乗らない。飛行機で一つ飛びするのだ。だからロシア号も嘗て毎日運転だったものが隔日運転になったのだ。

零時過ぎトイレに起きるとシルカ(モスクワまで6、451キロ)に停車中、窓の下には下り列車を待つ乗客4人、警乗の警官2人がホームで寒そうに列車待ち。駅前広場には急ぎ歩きの人影も見える。

シベリア鉄道膝栗毛 9,298 キロ列車の旅 (2)

白岡ニュータウン自治会
自治会だより

2020年新春号

2020年2月1日発行

(年3回発行)

発行・白岡ニュータウン自治会

制作・広報部

5月18日(土) 5時に目覚めるとチタ(モスクワまで6、204キロ)に停車中、沿線主要駅だ。窓に雨が降り掛かっている。

7時に起床すると沿線は雪に覆われている。積雪量は5センチぐらいかな。一旦解けた地面に積もる雪、春の雪。車内の室温表示は流石に19度を下がっている。車内サモワールは大活躍。コーヒー・紅茶・スूप・インスタントラーメンに乗客はフル活用。事前情



延々と続く、代わり映えのしない風景



牽引機関車も途中で交替

報ではサモワールは石炭燃料とあったが電気だった。

車掌さんは1両に詳しい女性2人。終点までの通し勤務で2人で交代制。トイレ掃除やら掃除機で個室内から廊下も掃除で大変そう。

窓外には広すぎて、代わり映えしない光景を綴るのも疲れる。いつか雨に変わっていた雪もモグゾンを過ぎたあたりから、また雪に変わって降り積もる。雲が低く立ち込め、空はどんより。広がる沿線も農地か牧場なのか荒地か解らない。

牽引機関車も塗装が水色の物に替わって牽いている。すれ違う機関車もロシア電気機関車事情に疎い私だが、旧式っぽくなってきたように思われる。また塗装もカーキ色系の物が多くなったと感じる。

8時57分、モスクワから6、000キロポストを通過。3、259キロを走破し、3分の1乗って来た勘定になる。

人間の痕跡の無いシベリアと思っても、森林の中に散乱するゴミ、プラ袋やポリタンク、空き缶、ブルーシートから、そうでないことが判る。

打ち捨てられた廃屋にもチヤンと廃プラの類いが残されている。

通過する小さな集落に教会が見えた。線路より一段高めの山道に走る車が見える。しばらく並走するが、山道なので列車の方が早いに決まっている。道路が下がって来たが

舗装路でもない。すると抜かれていた車が前照灯を点けて猛スピードで追い抜いて行った。3、300キロ走ってき

て初めて車に抜かれた。

△次号につづく▽

編集後記

今年の元旦、珍しく早起きし、取材を兼ね初日の出の風景を探し回った。

高岩公園に行くくと東北自動車道の遮音壁越しに、白い富士山の山頂が覗いていた。もつと良く見える所はないかと車で探し、久喜寄りの田んぼの中にそこそこの場所を見つけ、眺めていた。

美しい自然の姿を眺めながら、今年はその自然が猛威を奮わないよう、祈る気持ちで初めて湧きました。

広報部 中村